



在日フランス大使館で『平成 29 年度 第 4 回海外経済セミナー』を開催しました！

(一財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課 杉本 明子

2018 年は日仏友好 160 周年にあたり、「ジャポニスム 2018」をはじめとする各種イベントがフランスにおいて開催されます。そうした中で、さまざまな分野でご活躍されている方をフランスから講師にお呼びし、在日フランス大使館との共催で大使館内で開催し、全国 50 団体から 71 名の関係者にご参加いただきました。

セミナープログラム

フランスへの展開 ~ジャポニスム2018を見据えた販路開拓、インバウンド、地域文化紹介の推進に向けて~

キーノートスピーチ:「今、世界が求める日本とフランスのマリアージュ」

講師: SAS ENIS 代表 塩川 嘉章 様

パネルディスカッション:「日本の伝統工芸品をフランスはどう見ているか」

モデレーター: 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官 荒井 陽一 様(前クレアバリ事務所長)

パネリスト: SAS ENIS 代表 塩川 嘉章 様

越中和紙「蛭谷(びるだん)和紙」川原製作所 代表 川原 隆邦 様
maison koichiro kimura 代表 木村 浩一郎 様
ブナコ株式会社 代表取締役 倉田 昌直 様

講演:「ホストタウンとフランス」

講師: 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官 荒井 陽一 様

講演:「フランスの食・観光プロモーション~自治体事業の実例」

講師: ネットファム株式会社 代表取締役 神戸 陽子 様

講演:「日本企業のフランス進出支援 ~傾向およびビジネスフランスの支援実例~」

講師: 在日フランス大使館 貿易投資庁 上席投資担当官 籠部 昭子 様



パネルディスカッションの様子
(左から、木村氏、川原氏、倉田氏、塩川氏、荒井氏)

フランス文化とのマリアージュにより特色が強くなるとお話しいただきました。

フランス進出の際に苦労した点については塩川氏は雇用、川原氏は言葉の壁、木村氏は価格、倉田氏は商品規格の違いと全員が違ったことを挙げられており、印象的でした。さらに自治体に対して、『海外の展示会にブース出展をするケースがあるが出展することがゴールになってしまっている。最終的に事業者が商流を確保しないと意味がなく、それには継続が大事』(倉田氏)、『伝統工芸の販路開拓だけではなく、食のPRやインバウンドなどを合わせたトータルのプロモーションを展開すべき』(塩川氏)、『世界に認められることは大切だが、国内で認められることも非常に重要。そういった点では、2020 年は日本に世界が注目するまたとない機会』(川原氏)、『フランスで成功することは世界で成功すること。日本の良さを世界に認めさせるという気概が非常に大切』(木村氏)と、経験と実績に裏打ちされた貴重なご意見を頂くことができました。

食と観光のプロモーションについては、広島県をはじめ中国地方の自治体と関わりの深いネットファム株式会社 代表取締役の神戸氏より、実例紹介を含む実践的な講演をいただきました。観光については、最も重要な

現地の生の声を届け、有益な情報とさまざまな先進事例をご紹介します

まず、フランス市場について熟知している SAS ENIS 代表の塩川氏にフランス展開に係る基本的な考え方のスピーチをいただきました。塩川氏はパリにおいて、海外で継続して売れる商品をサポートするプラットフォームとしての役割を担う Discover japan と Maison WA の 2 つのイベント



講演される塩川氏

スペースを展開されています。日本文化の独自性は海外展開の際に大きな武器となるばかりか、全く異なるフラ

は現地旅行会社へのアプローチであり、地方連携事業の際には、広域連携の方が相手側は関心を持ちやすく効果が高いなどと具体的なアドバイスをいただきました。また、国際交流員（CIR）は大変優秀であり、ファムツアーの際の案内など、自治体側の窓口となって活躍している例が多いとのことでした。昨今はブロガーの活用も費用対効果が高いため、注目されているそうです。

食のプロモーションについては「広島県日本酒ブランド化促進協議会」の取り組みを成功事例として紹介されました。成功要因は参加している蔵元から負担金を取ったこと、蔵元が実際にフランスに赴き、バイヤーと意見交換し努力することが売につながることを実感されたことだと分析されていました。フランスで唯一の日本酒展示会「Salon du Sake Paris」が開催されるなど、日本酒のニーズは今後も伸び、販路開拓のチャンスも拡大していくと予想されていました。さらに、観光と食の融合した事例として、酒蔵ツアーが注目されており、ツアーパッケージの中に盛り込まれる例も増えていると紹介いただきました。



神戸氏の講演資料より「パリの旅行博」の紹介

続いて在日フランス大使館貿易投資庁 上席投資担当官 縫部氏からは日本企業の投資状況・フランスの投資環境改善・サポートの具体例についてお話いただきました。

フランスでは雇用関係が厳しいと言われてきましたが、昨今では労働法改正のほか、法人税引き下げなどにより投資環境が改善されているとご説明頂き、貿易投資庁では企業に合わせて多様な支援ができることを事例を交えて紹介いただきました。2018年は仏商工会議所 100周年にあたり、フランスから 100 社中小企業を呼ぶという来日フォーラムの開催も予定されているそうです。

懇親会では駐日大使にもご挨拶頂き、ネットワーク形成の場を提供



ご挨拶されるピック駐日フランス大使

セミナー後は同会場にて、講師の方々と参加者による懇親会が行われました。終盤には駐日フランス大使 ローラン・ピック氏にご出席頂き、「地方自治体同士の交流は経済・文化・観光と多岐の分野にわたるが、いずれの場合でも人と人との交流であり、いわば『本当の交流』であるため非常に重要。大使館として、自治体のニーズをくみ取り、自治体間の交流の流れを支援することが大切な役割であり、今秋に熊本市で開催される『日仏自治体交流会議』には非常に期待している。」とご挨拶賜りました。なお、懇親会では和やかな歓談の中、山梨県の CIR であるポップ氏の挨拶や、富山県立山町の仏語 PR 動画の上映、講師である木村氏の映画 PR、国際交流基金によるジャポニスム関連事業のご紹介などが活発に行われました。

末筆ではございますが、共催として今セミナーに多大なるご協力を賜った在日フランス大使館の皆様、すばらしいご講演をいただいた講師の皆様、足元の悪い中お越しいただいた参加者の皆様に感謝申し上げます。

※セミナー詳細はホームページもご参照ください。

<http://www.clair.or.jp/j/economy/3/page-1.html>